第 6 回オンライン高校生文学模擬裁判選手権実施（夏目漱石『こころ』をモチーフにした教材）に向けて行う事前講義を関心ある方に開放致します。受講希望のかたはいつのどの時間を希望されるのか、以下のメールまでご連絡ください。後日、Zoom の URL をご連絡いたします。

→fudafuda@let.ryukoku.ac.jp（札埜）

第 6 回オンライン高校生文学模擬裁判選手権（2026 年 2 月 1 日実施）事前講義及び講師

日時	内容	講師	所属等
11/8 土 15～17：30	模擬裁判のつくり方講座（Ⅰ） 及び今回の争点の説明	伊東隆一氏	京都弁護士会・弁護士
11/15 土 14～16	「甲山事件」冤罪被害者が語る法の精神	山田悦子氏	冤罪被害者（甲山事件）
11/22 土 14～16	文学模擬裁判＆地理的･歴史的観点からの『こころ』解説	札埜和男	龍谷大学文学部教授
12/6 土 14～16	無罪判決約 30 件の日本を代表する刑事弁護人と議論する「死刑制度」＆刑事弁護	後藤貞人氏	大阪弁護士会・刑事弁護人
12/14 日 時間未定	模擬裁判のつくり方講座（Ⅱ）	伊東隆一氏	京都弁護士会・弁護士
12/20 土 14～16	法廷でのより良いプレゼンテーションを目指して	遠山大輔氏	京都弁護士会・弁護士
12/21 日 12：30～14	検察官という仕事とものの見方～経験を通じて	中村芳生氏	元検察官・現弁護士
1/10 土 15～16：30	漱石『こころ』と明治という時代（文学の視点から）	天野勝重氏	龍谷大学文学部准教授

講師プロフィール〈敬称略・順不同〉

伊東隆一（弁護士）

1979 年東京都生まれ。白陵高校、一橋大学法学部、立命館大学法科大学院を経て司法試験に合格し、弁護士となる。主催者（札埜）とは 2013 年より国語科における法教育についての協働実践者である。2013 年から 2017 年にかけて京都教育大学附属高校（授業者の前任校）の支援弁護士として、同校模擬裁判チームを日本弁護士連合会主催の高校生模擬裁判選手権において、3 回の優勝、2 回の準優勝に導く。現在京都弁護士会広報委員会委員長、法教育委員会委員。奥村・岡田総合法律事務所所属。

山田悦子（冤罪被害者）

1951 年富山県生まれ。1974 年 3 月兵庫県西宮市の知的障害者施設・甲山学園で園児二人が死亡したいわゆる「甲山事件」の冤罪被害者。一人は事故死とされたがもう一人の園児については殺害されたとして当時、保母として当直をしていたところ殺人容疑で逮捕された。事件発生から 25 年を経過し、99 年 9 月に大阪高裁で三度目の無罪判決で漸く無罪が確定した。起訴から 21 年の長い歳月を費やした。この事件では警察の強引な取調べ、犯罪報道の在り方などが問題となった。共著に『甲山事件　えん罪のつくられ方』（現代人文社）ほか。

後藤貞人（刑事弁護人）

日本を代表する刑事専門弁護士。これまでに勝ち取った無罪判決は 30 件以上。日弁連裁判員制度実施本部副本部長など多数の役職を務め、刑事弁護関連を中心に著作も多数。2010 年 4 月、21 年ぶりに最高裁が事実誤認ありとして１審の無期懲役と２審の死刑判決を破棄し、大阪地裁に審理を差し戻した大阪市母子殺害放火事件被告の主任弁護人を務める。「後藤でダメならあきらめろ」と言われるほどで、無罪を主張する被疑者や被告にとって駆け込み寺のような存在とされる。裁判員裁判が始まる前から、法廷で書面を見ずに弁論を展開する″離れ業″が注目され、法廷プレゼンテーションにおいても日本で第一級の弁護士である。「世界中を敵に回して、たった一人になっても『極悪人』のために戦うのが弁護士の務め」と言い切る。死刑廃止論者としても名高い。福岡工藤組の裁判でも主任弁護士を務めた。

遠山大輔（弁護士）

1974 年生まれ。2002 年弁護士登録。戸田・遠山法律事務所所属。2003 年 4 月～2008 年 3 月立命館大学非常勤講師。2007 年 10 月～2014 年 3 月龍谷大学法科大学院非常勤講師。2014 年 4 月～2017 年 3 月龍谷大学法科大学院教授。2017 年 2 月戸田・遠山法律事務所設立。共著「入門法廷戦略―戦略的法廷プレゼンテーションの理論と技術」(2009 年現代人文社)。2008 年に起きた舞鶴高１女子殺害事件で無罪判決獲得。2019 年に起きた京都アニメーション放火殺人事件の青葉真司被告人の国選弁護人を務めている。

中村芳生（元検察官）

1993 年から 2019 年まで検事として活躍。現在 TH 総合法律事務所カウンセル弁護士。検察官として東京地検特捜部、京都地検（特別刑事部長)、名古屋地検特捜部等に務め、脱税・独禁法・金商法・贈収賄・選挙違反・横領背任等の捜査公判を担う。内閣官房内閣参事官としてＩＲ（カジノ）立案、法務省にて法総研研究部長、刑事局参事官、秘書課付、人事課付、刑事局付を歴任し、税法等の各法令審査・著作権法改正協議会・司法試験管理委員会に関わる。ワシントン大学ロースクールビジティングスカラー（1998～1999 年）留学。2019 年弁護士（税理士）登録。2020 年一橋大学院経営管理研究科（ＭＢＡ）入学、2022 年一橋大学院経営管理研究科（ＭＢＡ）修了。筑波大学ビジネス科学学術院法学学位プログラムにおいて会社法を研究。証券会社調査委員会構成員（金融商品取引法違反)。2024 年千代田区入札不正行為に関する再発防止対策有識者会議委員。早稲田大学ビジネスファイナンスセンター招聘研究員。

天野勝重（大学教員・日本近代文学）

龍谷大学文学部日本語日本文学科准教授。専門は日本近代文学で、その中でも日本語や日本文学が発展する基盤が出来上がっていく明治期の文学作品と文学史の関係について研究している。特に齋藤緑雨の批評や小説を軸に研究を展開しており、緑雨が文学者に「品性」を強く求めていたこともあり、文学における「品性と笑い」についての研究も進めている。「明治期の法と文学の関係にも興味があり、論文として「広津柳浪『乱菊物語』論―民法の浸透と限界―」（2015 年大谷大學文藝學會「文藝論叢」第 84 号）がある。

札埜和男（大学教員・国語科教育、法教育、方言学）

大阪府生まれ。慶応義塾大学法学部卒業。博士（文学・大阪大学)。現場教員生活 31 年（中学校 2 年・高校 29 年)。うち担任 20 回。最初の 3 年間は社会科教員（国語・社会・英語の中高免許状所有)。龍谷大学文学部教授。「模擬裁判師」として模擬裁判普及のため全国各地へ指導に赴く。三度の飯より模擬裁判を好み、模擬裁判指導歴は数百回に及ぶ。